（様式３）

平成１９年度　傾斜的研究費　（特定）（全学分）（戦略分・公募分）研究報告書

研究代表者所属	産業技術大学院大学 情報アーキテクチャ専攻	ﾌﾘｶﾞﾅ 研究代表者氏名	トザワヨシオ 戸沢義夫	職	教授
研究分担者所属	情報アーキテクチャ専攻	研究分担者氏名	秋口忠三	職	教授
	情報アーキテクチャ専攻		酒森潔		教授
	情報アーキテクチャ専攻		嶋田茂		教授
	情報アーキテクチャ専攻		瀬戸洋一		教授
	情報アーキテクチャ専攻		成田雅彦		教授
	情報アーキテクチャ専攻		南波幸雄		教授
	情報アーキテクチャ専攻		村越英樹		教授
	情報アーキテクチャ専攻		加藤由花		准教授
	情報アーキテクチャ専攻		中鉢欣秀		准教授
	情報アーキテクチャ専攻		川田誠一		教授
	情報アーキテクチャ専攻		清水將吾		助教
	情報アーキテクチャ専攻		土屋陽介		助教
	情報アーキテクチャ専攻		長尾雄行		助教
	情報アーキテクチャ専攻		村尾俊幸		助教
	情報アーキテクチャ専攻		森本祥一		助教

研究課題名	ＰＢＬの教育に関する研究

研究実績の概要（600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。）

本学のPBLは、下記の観点から画期的な試みである。
①修士論文に替わる修士号を取得するための必須科目である
②２年次のほとんどを費やす
③Competency教育であると明確に位置づけられている
④教員１０名がそれぞれプロジェクトを設定し，教育内容は教員に委ねられる
⑤大学院レベルの教育が要求される
⑥社会人中心で，バックグラウンドの違う多彩なメンバーでチームが構成される
⑦Referenceできる事例がほとんどない
このような環境の中で、Ｈ１９年度の教育研究により、大学院として恥ずかしくないＰＢＬ教育の実施方法、管理方法、学生評価方法を確立することができた。
Ｈ１９年度に実施された９つのＰＢＬプロジェクトの成果は、成功裏に外部向けに成果発表会を実施することができ、その模様は日経ＢＰなどのマスコミにも取り上げられた。９つのプロジェクトは以下である。
・産技大PBL教育におけるe-Learningシステム開発プロジェクト
・概念データモデリングによる情報システム設計
・東京都港湾局の業務改革提案
・ソフトウェア・アーキテクチャと開発プロセス
・教育用ソフトウェア開発プロセス支援システムSPEEDの開発
・PMOの立ち上げとプロジェクトマネジメント スキル育成プログラムの実施
・インタネットサービスにおけるコミュニケーションインフラの企画
・産業技術大学院大学における情報セキュリティポリシーの策定プロジェクト
・研究型プロジェクトによる次世代ネットワークアーキテクチャの設計

（様式３）

平成１９年度　傾斜的研究費　（特定）（全学分）（戦略分・公募分）研究報告書

大学全体でＰＢＬプロジェクトを管理するためのルールとして確立したのは次の４点である。
①週報（Weekly）
　今週のプロジェクトの目標
　今週の自分の役割
　今週の自分の活動内容
　今週の自分の成果物
　来週の計画・予定
　プロジェクト固有の特記項目
　向上したコンピテンシー（何ができるようになったか）
　発見したこと、気付いたこと、今後学習が必要と感じたこと
　教員への要望
　他プロジェクトメンバーに関するコメント
②Self Assessment（Quarterly）
Ⅰ．プロジェクト活動の観点から
　　プロジェクト目標と（自分が考える）達成度（ xx ％）
　　プロジェクト目標達成のためにあなたが貢献した活動内容、役割
　　自分が作成にかかわった成果物
　　自分の活動ハイライト
Ⅱ．コンピテンシーの観点から
　　プロジェクト活動を通じて得た知識：
　　向上したコンピテンシー　（何ができるようになったか）：
Ⅲ．グループ活動の観点から
Ⅳ．プロジェクト固有項目
③成果発表会（８月と２月）
④成績評価判定法
　総合評価（１００点満点）
　重み割合（プロジェクト：コンピテンシー：グループ活動）
　プロジェクト評価（１００点満点）
　コンピテンシー評価（１００点満点）
　グループ活動評価（１００点満点）

上記のＰＢＬ管理ルールを支援するためのシステムとして、Ｈ１９年度はNotesを使用したが、学生の利便性を考慮し、新しいシステムの必要性が把握され、Ｈ２０年度に試行するシステム要件を確立することができた。

本学のＰＢＬへの取り組みは、随時学会発表を行い、本学の教育システムの特長としてのＰＢＬをアピールできた。

（様式３）

平成１９年度　傾斜的研究費　（特定）（全学分）（戦略分・公募分）研究報告書

学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）

PBL(Project Based Learning)による社会人に対する情報戦略策定の教育
FIT2007, 2007年9月

情報システム専門職大学院大学におけるPBLの実践
IPSJ IS研究会 第101回, 2007年8月

専門職大学院で修士号を与えるための Project Based Learning の実施方法
SSS2007, 2007年8月

2007 Global CIO Roundtable, 2007年10月

- 遠藤博樹, 柴田浩明, 渡部寿基, 加藤由花, ″モバイル音楽共有システムJAMSにおけるキャッシュ管理方式,″ 情報処理学会マルチメディア通信と分散処理研究会, DPS-134, pp.151-156, 2008(3).

- 富澤智, 大城裕史, 加藤由花, ″モバイル音楽共有システムJAMSにおける場の特徴量表示方式,″ 情報処理学会マルチメディア通信と分散処理研究会, DPS-134, pp.145-150, 2008(3).

- 柴田浩明, 富澤智, 遠藤博樹, 渡部寿基, 大城裕史, 加藤由花, ″場の特徴量を利用した意外性のあるモバイル音楽共有システム,″ 情報処理学会マルチメディア通信と分散処理研究会, DPS-133, pp.25-30, 2007(11).

- 柴田浩明, 富澤智, 遠藤博樹, 加藤由花, ″コンテンツの局所性に着目したP2P型音楽配信システム,″ 情報処理学会マルチメディア通信と分散処理(DPS) ワークショップ, pp.37-42, 2007(10).

長尾 雄行, 土屋 陽介, 森本 祥一, 中鉢 欣秀,
″JavaScriptと非同期HTTPリクエストによる共同作業支援ミドウェアの構築″,
第67回情報処理学会・プログラミング研究会, 2008年1月

論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）

特になし

科学研究費補助金への応募状況、採択状況

特になし

国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況

特になし

その他社会貢献
［公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等］

特になし

研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況

工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日
特許出願３件					